

1

【出題意図】

文章を正確に読み取る力，作者が表現したことを理解する力，理解し解釈したことを踏まえ推測する力，伝えたいことを文章で表現する力をみる。また，漢字の読み取り・書き取りなど基本的な国語能力を測る。

【解答例】

問1 下線部(ア)～(オ)を，漢字で表しなさい。

- (ア) 肝要 肝（中学以降） 要（小学4年）
- (イ) 過敏 過（小学5年） 敏（中学以降）
- (ウ) 縁起 縁（中学以降） 起（小学3年）
- (エ) 疎遠 疎（中学以降） 遠（小学2年）
- (オ) 催促 催（中学以降） 促（中学以降）

問2 下線部(a)～(d)について，下の問いに答えなさい。

- (1) 下線部(a)の「立」の読みと同じ読み方をする「立」の熟語を，下の枠の中から選びなさい。（2点）
 - ・脚立
- (2) 下線部(b)と同じ読みの形容詞の漢字を3つ答えなさい。
 - ・固，硬，難
- (3) 下線部(c)について，「時期」でなくこの漢字であるのはどのような意味があるか答えなさい。
 - ・「時期」もその時ことを表す意味では同じであるが，「時機」とすることでまさにその時，一瞬の機会を捉えていることが強調される。
- (4) 下線部(d)の熟語を用いて短文を作りなさい。
 - ・私と妹の性格は対照的だ。

問3 二重下線部(A)「気の毒だね」という言葉について，父はなぜ私のことを「気の毒」と思ったのか，理由を書きなさい。

- ・自分に気を使って「私」が本当のことを言えないのだと思ったから。

<採点基準>

文章に書かれた事実そのまま捉えた解答，例えば「自分の病気のために「私」が東京行きを延ばさなければならなかったから。」などは部分点とする。

問4 二重下線部(B)について、「自覚」はしていたのに「気づかなかった」のはなぜか、その心理を50字以内で説明しなさい。

- ・食欲が普段より進み食べたいだけものを食べたい状態だったため、死がせまりつつあることに気付かなかった。(50字)
- ・遠からず死が訪れることは頭では分かっているけれども、やりたい事があるため、病状の悪化から目をそらしていた。(50字)
- ・箒で妻の背中をどやしたりするなど強い夫であったため、夫や父親として弱いところは見せたくなかった。(48字) など

<採点基準>

前後の文脈から読み取れる心理であるかどうかで判断する。

問5 二重下線部(C)「私は先生に対する奥さんの態度を学ぶことができなかった」のはなぜか、「仮定」と「事実」という単語を用いて100字以内で説明しなさい。

- ・先生の死は仮定の話だったので、奥さんは明るくはっきりと拒絶の態度を示すことができたのに対して、父の死はいつ起こるか分からない事実だったので、私は曖昧な態度で父の気持ちを紛らわすしかなかったから。(97字)
- ・先生は仮定として死のことを笑って話したので、奥さんは明るくはっきりと拒絶の態度を示すことができたのに対して、父の死はいつ起こるか分からない事実だったので、私はそのような態度を取れなかったから。(96字)

問6 二重下線部(D)の「柔らかに」という表現には私のどのような気持ちが表れているか、100字以内で説明しなさい。

- ・氷嚢の中の氷の破片がとがっているため死期が迫っている父の額が傷つかないように安らかに昇天して欲しいと願う気持ちと、これまでの父との思い出を想起しながら、ゆっくりとした穏やかな時間の流れを感じていた。(98字)

2

【出題意図】

複数の図表をもとに、図表を正確に読み取る能力、図表から特徴や傾向を読み取る能力、読み取りを前提として、推測、評価、判断する能力を問う。

【解答例】

問1 図1において、救急車出動件数の内、急病による出動件数の割合を、平成16年と令和元年とで比較し、どちらが何ポイント大きいかが答えなさい。式を書いて、答えは小数第2位を四捨五入して小数第1位まで求めなさい。

式

$$\text{平成16年 } 2,953,000 \div 5,029,000 = 0.5871\cdots \times 100 = 58.7\%$$

$$\text{令和元年 } 4,335,000 \div 6,640,000 = 0.6528\cdots \times 100 = 65.3\%$$

$$65.3\% - 58.7\% = 6.6\%$$

答え 令和元年が6.6ポイント大きい。

問2 図2において、平成16年と比較して令和元年の現場到着所要時間（全国）および病院収容所要時間（全国）はそれぞれ何%増えたか。式を書いて小数第2位を四捨五入して小数第1位まで求めなさい。

現場到着所要時間（全国）

$$8.7 \text{ 分} \div 6.4 \text{ 分} \times 100 = 135.9375 \div 135.9\% \rightarrow 35.9\%$$

病院収容所要時間（全国）

$$39.5 \text{ 分} \div 30.0 \text{ 分} \times 100 = 131.6666\cdots \div 131.7\% \rightarrow 31.7\%$$

問3 表1において、急病の搬送人数における軽症（外来診療）について、読み取れることを110字以内で書きなさい。

<採点基準>

下記の内容に類似したことが解答に含まれている。

急病の傷病程度別搬送人数は、軽症（外来診療）が最も多い。さらに、軽症（外来診療）の搬送人数の内、高齢者の人数が最も多い。年齢区分別では乳幼児、少年、成人において、軽症（外来診療）の搬送人数の割合が最も大きい。(104字)

問4 全ての図をみて、あてはまるものには○、あてはまらないものには×をつけなさい。

1. 全国について救急車による救急出動件数は毎年増加し、現場到着所要時間が延長している。
→図1及び図2より、平成20年と21年は出動件数が減少するが、到着時間は延長している。
また、平成28年と29年は出動件数が増加しているが、到着時間は変わらないため ×
2. 全国について令和元年の救急車による搬送人員のうち急病で搬送される人数は、6割を超える。
→図1より救急車による搬送人員5,978,008人、表1より急病搬送人数3,922,274人
概算で $39 \div 59 = 0.66$ のため ○
3. 65歳以上の人口割合は、全国と比較して岩手県は大きく、年間救急出動件数も全国と比較して多い。
→図3、表2より ×
4. 岩手県県央の119番通報件数について、緊急性なし（無効）の通報は1割未満である。
→ 総件数33,476件の内、緊急性なし（無効）は4,474件 $13.36 \dots \%$ のため ×

問5 図2より救急車の現場到着時間について、岩手県は毎年、全国平均より長くかかっている。岩手県の現場到着時間が延長する理由について、図1、図3及び表1、表2から、読み取った図表を示しながら、200字以上250字以内で書きなさい。(10点)

<採点基準>

下記の内容に類似したことが解答に含まれている。

図1より令和元年の救急車出動件数及び急病による搬送人数は、16年間で最も多く、その内、表1より急病で搬送されるのは高齢者が最も多い。図3より岩手県は全国と比較して高齢者の割合が高く、急病での搬送が多いことが考えられる。また、表2及び図3より救急車の人口10万人当たりの数は全国より多く、年間の出動件数は全国より少ないが、県の面積は全国の都道府県の平均面積より広いため、救急車が現場へ到着するまでに時間がかかると考えられる。(209字)

問6 すべての図表を読み取って、適切な119番通報に必要なことについて、根拠となる図表を示しながら、350字以上400字以内で答えなさい。ただし、ここでいう119番通報とは、救急車とする。

<採点基準>

下記の内容に類似したことが解答に含まれている。

図1より救急車の出動件数は平成22年以降年々増加しており、それに伴い現場到着時間と病院収容時間も延長していることが図2よりわかる。図3より社会の高齢化が進んでいることも、表1の高齢者の急病での搬送が増える要因であると考えられる。しかし、表1より入院加療を必要としない軽症者が搬送人数の約半数を占めること、表2より病院数や救急車の数の地域格差があることは、3週間以上の入院加療を必要とする重症者への対応が遅れることにつながるため、本当に救急車が必要かということについて、一人一人が考える必要がある。また、図4と図5より岩手県において緊急性のない無効な通報が1割を超えること、その内訳が問い合わせや間違いなどであることも緊急通報を増やすことにつながり、一刻を争う事態への対応に支障を及ぼす可能性がある。日ごろから119番通報は緊急の時に使用するものであることを認識し、119番通報の適切な利用を心掛けていく必要がある。(400字)

【出題意図】

高校数学 I・A までの範囲で、次の 3 つの学力を測ることを意図している。

- ① 数学についての基礎的知識と計算力。
 - ② 資料をもとに設問にしたがって情報を数学的に処理する力。
 - ③ 数学的推論（演繹推論）力。
- ②や③といった高度な学力も測るために、小問主義を採らず、大問（一つのテーマ）のもとに易から難へと設問を重ねている。本出題のテーマは「集合と命題」（数 I）と「場合の数と確率」（数 A）である。「集合と命題」は、難易度の調整や多様な問題を作ることが難しいことから、入試では出題されることが少ない。しかし、演繹的思考の前提となる重要な領域なので、出題した。「場合の数と確率」は日常生活でも大切な領域であるとともに、統計学とも密接につながるので出題がした。

【解答例】

問 1 ${}^5C_3 = 5! / (2! \cdot 3!) = (5 \times 4) / (2 \times 1) = 10$

問 2 ${}^5P_3 = 5! / 2! = 5 \times 4 \times 3 = 60$, 問 1 の解答を使って, $10 \times {}^3P_3 = 10 \times 3! / 0! = 60$

問 3

(1) $3/5 \quad {}^4C_2 / {}^5C_3 = 4! / (2! \cdot 2!) / 10 = 3/5$

(2) $3/10 \quad {}^3C_1 / {}^5C_3 = 3! / (2! \cdot 2!) / 10 = 3/10$

問 4

(1) 10 理由：最大得票数は生徒全員が投票した場合の 10 だから。

(2) 4 理由：1 位と 2 位の得票数が 10, 3 位が 4, 4 位と 5 位が 3 の場合に、3 位の得票数が最小になるから。

問 5

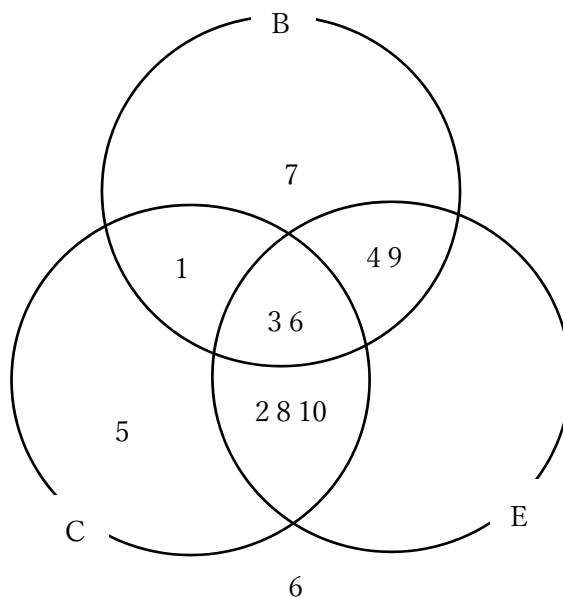


図 各訪問地に投票した生徒

問6

- (1) $B \cap C \cap E = \{3, 6\}$
- (2) $\overline{B \cup E} = \{5\}$,
- (3) $B \cap C \cap \bar{E} = \{1\}$
- (4) $(B \cap C) \cup (B \cap E) = \{1, 3, 4, 6, 9\}$
- (5) $\overline{B \cup C} \cap E = \phi$

問7

投票の結果、訪問候補地5つのうち2つが訪問地ではなくなる。他方、生徒はみんな3つの候補地に投票しているので、投票したうちの少なくとも1つは訪問地となるから。

問8

- (1) 真
- (2) 訪問候補地Bに投票するならば、生徒3である。
- (3) 偽。 訪問候補地Bに投票する生徒は生徒3以外にもいるから。
- (4) 訪問候補地Bに投票しないならば、生徒3ではない。
- (5) 真。真の命題の対偶命題は真だから。